

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ト

男子 ・女子 3回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Aコート

チーム名				チーム名			

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

チ

男子 ・女子 3回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Bコート

チーム名				チーム名				
総得点				総得点				
明星高等学校	20	[	11	—	13	]	30	高水高等学校
			9	—	17			
				—				
				—				
				—				
				7mTC				

創部 20 周年の節目に念願の全国大会初出場となる明星と全国大会 3 年連続 1 4 回目の出場高水の

対戦。スローオフは高水。先制点は高水⑯が中に切り込みシュートを決める。両者ともゴールキーパーの好セーブが続き、前半 6 分 3 対 1 で高水がリード。その後もお互い譲らぬ攻防が続き、高水⑪の

ミドルで 4 対 2。高水⑬のサイドシュートで前半 1 5 分に 3 点差。しかし明星⑦のロングシュートで

すぐに 2 点差に戻すとさらに試合は白熱し、前半 1 8 分高水⑯の逆速攻からの得点で 9 対 5 と 4 点差

が開き明星が T.O を取るが勢い止まらぬ高水がリードを 6 点差まで広げた。しかし 2 6 分高水⑤が退

場。ここから明星が流れを掴み点差は 2 点になり、前半は 1 3 対 1 1 と高水 2 点リードで終了。

後半先制は明星⑬のミドル。明星④がサイドシュートで同点。一進一退の攻防が続き後半 6 分高水④

のポストシュートで再び 2 点差に。流れに乗った高水はその後も着実に得点を重ね 4 点差に。1 5 分

明星②が退場。2 1 対 1 5 とリードを 6 点にした。2 1 分明星⑪のサイドシュートで 5 点差としたが、

高水が要所を押さえてリードを保ったまま 3 0 対 2 0 で粘る明星を振り切った。

2018年 3月 26日

記載者氏名 宮崎 慶仁

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男二

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名
藤代紫水高校	19	7 ー 14 12 ー 9 ー ー 7mTC	23	大分雄城台高校

大会3日目、3回戦最終試合は関東ブロック代表の藤代紫水と九州ブロック代表の大分雄城台。

大分雄城台のスローオフで試合開始。大分雄城台が開始50秒、9番三重野が速攻からのサイドシュートで先取点をとる。負けじと藤代紫水の5番榎本がステップシュートでDFの上から決める。大分

雄城台GK伊藤、藤代紫水GK堀越の好セーブで、立ち上がりは3対2のロースコアで試合がすすむ。

だが、19分を過ぎ、大分雄城台が4番大津のロングシュートで加点すると、その後も2連取し

試合を優位に進める。ここで藤代紫水がT.Oを取った後、2番吉田がブラインドシュートを決め

反撃にでるが、大分雄城台が終盤5連取し、14対7とリードを広げ、前半を折り返す。

後半、藤代紫水が3連取に成功する。勢いのついた藤代紫水はその後も5連続得点で怒涛の追い上

げをみせ、4番齋藤の速攻で同点に追いつく。しかし、大分雄城台が11番園田のカットインからの

得点で差を広げ、23対19で逃げ切り、準々決勝へ進出した。

30年 3月 26日

記載者氏名 杉山 博章

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

チ

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
九州産業	23	8 ー 18 15 ー 8 ー ー ー 7mTC	26	氷見

高山西との激戦を征した九州産業と、初戦を無難に勝ち上がった氷見との対戦。氷見のスローオフで試合開始。0分40秒、氷見は⑧杉本がポストシュートを決め、幸先良く先制。九州産業も、5分43秒に③溝口のシュートですかさず同点に追いつく。序盤は、九州産業GK宮本が好セーブを連発し、試合は均衡するが、氷見が徐々に攻撃の手を強めていく。8分57秒に⑧杉本が再度ポストシュートを決めると、そこから3連続得点。1点を返された後、さらに連続得点。ここで九州産業はTO。悪い流れを断ち切りたった九州産業だが、再開後も氷見が3連続得点を決め、試合の流れを渡さない。九州産業も必死に食らいつくが、前半終盤に③溝口、⑥斉藤が2分退場。この隙に、氷見は着実に得点を重ねていき、大量10点のリードで前半を終える。

後半は九州産業が③溝口がパスカットからシュートを決め、先制。勢いをつけたい九州産業だが、氷見はすかさず点を取り返す。中盤、九州産業は氷見の攻撃の要である⑬安平に対してマンツーマンDFを敷き、氷見DFの乱れを見逃さず速攻を仕掛け4連続得点。一旦は巻き返す氷見だが、再びパスミスなどDFが乱れ4連続失点。終盤に凄まじい追い上げを見せた九州産業だが、DFの乱れはあったものの、終始落ち着いてプレーをした氷見にあと僅か及ばず惜敗し、氷見が準々決勝へと駒を進めた。

30年 3月 26日

記載者氏名 石田 聡